

平成20年1月23日

福岡県保健福祉部長 山崎 建典 殿  
福岡県環境部長 角 敬之

福岡県保健環境関係試験研究外部評価委員会  
会長 井上 尚英

### 平成19年度福岡県保健環境関係試験研究外部評価報告書

#### 1 はじめに

本評価委員会は、「福岡県保健環境研究所における試験研究の効率的・効果的な実施と活性化及び透明性の確保」を図るため、平成14年12月に設置されたものである。

今回、平成19年度評価委員会を平成19年10月10日に開催し、平成20年度新規課題及び平成18年度終了課題について評価するとともに、研究分野全般に対する意見を提出した。

今回の評価結果・意見を参考に、福岡県保健環境研究所が「保健・環境行政を科学的・技術的側面から支える中核機関」として、変化する時代の要請に的確に応えることを期待する。

#### 2 評価委員会の評価結果

##### (1) 平成20年度新規課題

7課題（保健関係4課題，環境関係3課題）について評価し、意見を提出した。  
主な意見は次のとおりである。

##### (保健関係)

課題名	研究期間	主な意見
これまで原因不明となっていた食中毒細菌の検査方法、特に希少カンピロバクターの検出方法の検討	H20-22	食中毒の原因究明及び防止に役立つものとして評価できる。県民だけでなく国民にとって有益な研究である。 検査費用の削減だけでなく、検査スピードアップの効果が大きい。
県内に生息するダニ類の病原体保有状況に関する研究	H20	診断を誤れば、致命的になる病原体なので重要な研究課題と考える。 調査地域の選定、捕獲する野ネズミのサンプル数など、調査データとして意味あるものにするための注意が必要。
福岡県における健康危機に対応するための試験検査機能強化に関する研究	H20-21	健康危機対策上、試験検査機能の強化、特にその迅速性は重要である。 海外からの輸入食品の安全性に県民の関心も高くなっており、緊急性があるが、県としての独創性を明確にしてもらいたい。

臭素系ダイオキシン類等新たな有機ハロゲン化合物による食品汚染調査	H20-22	塩素系ダイオキシンと同様な毒性が予想される臭素系ダイオキシン類を高精度で検出できる方法を確立することは、喫緊のテーマであり、急いでいただきたい。 食の安全のため、十分な研究を行っていただきたい。
----------------------------------	--------	--

(環境関係)

課題名	研究期間	主な意見
福岡県における広域汚染に関する研究－煙霧及びオキシダントを中心として－	H20-21	近年、新たに問題となっている現象であり、早期に解明していただきたい。 近隣大陸からの影響が懸念されており、長期展望と広域調査のネットワーク化を図っていただきたい。
高活性炭素繊維を用いた大気浄化技術の実用化、応用研究	H20-22	福岡県内で自動車産業が厚みを増しており、それに伴って大気浄化の実証研究も活発化することも考えられる。 コストの問題を解決して、早期実用化が図られるよう期待する。
循環資源有効利用技術の開発及びリサイクル資源の環境安全性に関する研究－焼却灰からの塩素除去技術に関する研究－	H20-21	焼却残渣の再利用促進は重要である。 焼却灰からの塩素除去を低コストで行うことができれば、環境保全のための意義は大きい。 脱塩後の水処理コスト及び脱塩レベルを明確にし、トータルコストの評価も含めての検討が重要である。

(2) 平成18年度終了課題

6 課題（保健関係 2 課題、環境関係 4 課題）について評価し、意見を提出した。  
主な意見は次のとおりである。

(保健関係)

課題名	研究期間	主な意見
ウイルス性食中毒検査法の開発	H17-18	公定法よりも高感度のノロウイルスの検査法を見だし、既に行行政検査に使用していることは高く評価できる。 本成果を食品からの検出方法の確立へと発展させていただきたい。
ダイオキシン類のヒト健康影響に関する調査研究－油症患者ダイオキシン類追跡調査を中心として－	H16-18	油症患者認定の基礎資料として、既に活用されており、学会での発表も活発に行われている。 ダイオキシン類による健康被害について、世界的にも役立ていただきたい。

(環境関係)

課題名	研究期間	主な意見
ダイオキシン類データベースの構築と解析及び簡易分析法開発への応用	H15-18	安価な研究コストで、将来につながる大きな成果（データベース構築）を得ている。 データベース化という地味な課題ではあるが、今後のダイオキシン対策に役立つものと思われる。
北部九州における黄砂の影響に関する研究 - 春季における高 SPM 現象との関連について -	H15-18	大気汚染物質の長距離移流の解析は重要である。経時的観察が重要と思われる。 発生源対策を含め、わが国、特に福岡県にとって積極的に続けるべき課題と考える。
有明海に対する陸域からの汚濁物質解析とその挙動に関する研究	H16-18	有明海の再生は、諫早湾干拓等の問題もあり、汚染物質の解析が急がれるところである。次に研究の機会があった際は、課題を共有する有明海沿岸地域との連携を図って共同研究に取り組んでいただきたい。
廃棄物処分場の管理手法に関する研究	H16-18	廃棄物処分場の安全管理に関する新しい手法の確立は、有意義である。 実態調査のほか、改善対策を行った処分場への応用性及び効果等も明確にしていきたい。

(3) その他(各研究分野全般について)

保健環境研究所において実施されている9研究分野に関し意見を提出した。  
その概要は次のとおりである。

	分 野	主な意見
保 健 関 係	感染症の発生拡大防止及び食品の安全性確保に関する研究	社会的な要請に的確に対応したテーマが取り上げられ、その研究成果が具体的に活用されていることは、高く評価される。
	ダイオキシン類、有害化学物質による健康被害の防止とその対策に関する研究	科学的なデータとなるように、長期にわたり継続されていることはすばらしい。 継続的な関連研究への取組と、これまでの成果の広域的な活用が望まれる。
	地域保健情報の解析、評価及び活用に関する研究	データベースの構築は、将来の研究に役立つため、今後は、メンテナンスにも十分配慮する必要がある。 俯瞰的な見方からの検討が欠かせない。
環 境 関 係	ダイオキシン類、有害化学物質による環境汚染の防止とその対策に関する研究	簡易分析法が確立されると、環境中の動態を改めて把握することが望まれる。 的確な環境汚染防止対策に有効に活かされることが望まれる。
	大気環境の保全に関する研究	一般県民がとても関心を持っている分野であり、分かりやすく研究成果を広報することが望まれる。 福岡県にとどまらず、周辺国との連携を深め、研究を続けていただきたい。
	水環境の保全に関する研究	生物保全のための水質に関する研究も今後の課題と思われる。 閉鎖性海域や河川の上流・下流の問題など、研究エリアが広域的で県境を越える場合もあるので、積極的に共同研究体制を模索していただきたい。
	廃棄物の適正処理と有効利用に関する研究	廃棄物の適正処理、リサイクルに加え、減量化研究も望まれる。 産業界との協力も考慮していただきたい。
	自然環境と生物多様性の保全に関する研究	レッドデータブックが一般県民にも関心を持たれており、福岡県内の貴重な生物群の研究に努めることは、大いに意義がある。
	理学的要因による環境影響とその対策に関する研究	生活環境を脅かしている多くの理学的要因についても、影響実態の把握とそのための対策を検討することは大事なことである。出来れば、テーマとして起こす必要があると思われる。

## 福岡県保健環境関係試験研究外部評価委員会委員名簿

役 職	氏 名	現 職 名
会 長	井上 尚英 <small>いのうえ なおひで</small>	九州大学大学院 医学研究院 名誉教授
副会長	楠田 哲也 <small>くすだ てつや</small>	北九州市立大学大学院 国際環境工学研究科 教授
	池田 俊彦 <small>いけだ としひこ</small>	(社)福岡県医師会 副会長
	谷口 初美 <small>たにくち はつみ</small>	産業医科大学 医学部 教授
	松藤 康司 <small>まつふじ やすし</small>	福岡大学 工学部 教授
	陣内 和彦 <small>じんない かずひこ</small>	九州大学 知的財産本部 アドバイザー
	鳥丸 聡 <small>とりまる さとし</small>	(株)鹿児島地域経済研究所 経済調査部長
	佐藤 啓司 <small>さとう けいじ</small>	福岡県経営者協会 専務理事

平成20年3月31日

## 平成19年度外部評価結果を受けて

福岡県保健環境研究所 所長 吉村 健清

### 1 はじめに

平成19年10月10日に開催された「福岡県保健環境関係試験研究外部評価委員会（会長：井上<sup>いのうえ</sup>尚<sup>なお</sup>英<sup>ひで</sup>九州大学大学院名誉教授）」において調査研究課題の評価が行われ、その結果が「平成19年度福岡県保健環境関係試験研究外部評価報告書」として提出されました。

この報告書では、各研究課題に対する評価結果とともに、その他（各研究分野全般）について、数多くの貴重な御指摘・御助言をいただいております。

保健環境研究所としましては、今後これらの御指摘・御助言を業務遂行に十分に反映させ、「保健・環境行政を科学的・技術的側面から支える中核機関」として、その役割を果たせるよう努力していきます。

### 2 保健環境研究所における対応

平成20年度新規課題（7課題）及び平成18年度終了課題（6課題）について評価していただきました。これらの評価結果については、各研究代表者（グループ）に還元し、今後の研究活動の改善、研究計画の調整・見直しなどに活用してまいります。

また、委員会からいただいた研究分野全般に関する貴重な御意見につきましても、調査研究業務を活性化させるために参考にさせていただきます。

なお、委員会からいただいた主な御意見につきましては、別表1及び2のとおり取り組んでまいります。

今後とも、委員会の指摘・助言を踏まえ、調査研究などの研究所業務の積極的な展開を図ります。

別表1 平成20年度新規研究課題に対する委員会の意見(抜粋)とその対応

	平成20年度新規課題名 (研究期間)	主な意見	保健環境研究所における対応
保 健 関 係	これまで原因不明となっていた食中毒細菌の検査方法、特に希少カンピロバクターの検出方法の検討 (H20-22)	食中毒の原因究明及び防止に役立つものとして評価できる。県民だけでなく国民にとつて有益な研究である。 検査費用の削減だけでなく、検査スピードアップの効果が大きい。	本研究の推進により、検査費用の削減及び検査スピードアップに貢献したいと考えております。
	県内に生息するダニ類の病原体保有状況に関する研究 (H20)	診断を誤れば、致死的になる病原体なので重要な研究課題と考える。 調査地域の選定、捕獲する野ネズミのサンプル数など、調査データとして意味あるものにするための注意が必要。	福岡県内で確認されたツツガムシ病などといったダニが媒介する感染症に対する県民への啓発のため、本研究を行っていきます。 調査地域の選定、採取するダニ等のサンプル数などについては、充分検討し、調査を実施します。
	福岡県における健康危機に対応するための試験検査機能強化に関する研究 (H20-21)	健康危機対策上、試験検査機能の強化、特にその迅速性は重要である。 海外からの輸入食品の安全性に県民の関心も高くなっており、緊急性があるが、県としての独創性を明確にしてもらいたい。	他の地方衛生研究所と協力して、迅速及び網羅的な検査体制の構築を試みる予定です。 福岡県はアジアとの交通が盛んであるため感染症等が最初に侵入する恐れがあり、万が一そのような事態が発生した場合に県民の健康被害を最小限に食い止めることを目標に、研究を実施していきます。

	平成20年度新規課題名 (研究期間)	主な意見	保健環境研究所における対応
保健関係	臭素系ダイオキシソキシソ類等新たな有機ハロゲン化合物による食品汚染調査 (H20-22)	塩素系ダイオキシソキシソ類と同様な毒性が予想される臭素系ダイオキシソキシソ類を高精度で検出できる方法を確立することは、喫緊のテーマであり、急いでいただきたい。 食の安全のため、十分な研究を行っていただきたい。	未調査の臭素系ダイオキシソキシソ類について、分析法を開発・確立します。また、従来からのダイオキシソキシソ等の化学物質の調査と併行し、食品や食事試料を拡大して本調査を実施します。そのことにより一連の化学物質による汚染の実態を明らかにするとともに、リスク評価を行っていきます。
環境関係	福岡県における広域汚染に関する研究 ―煙霧及びオキシダントを中心として― (H20-21)	近年、新たに問題となっている現象であり、早期に説明していただきたい。 近隣大陸からの影響が懸念されており、長期展望と広域調査のネットワーク化を図っていただきたい。	九州各県の環境研究所と情報を共有することにより、さらに実測で得られたデータと大学のシミュレーションとの比較を行うことで広域汚染実態のより詳細な把握に努めます。 実態調査で現状を把握した後、発生源、発生メカニズムを解明することを考えております。
係	高活性炭素繊維を用いた大気浄化技術の実用化、応用研究 (H20-22)	福岡県内で自動車産業が厚みを増しており、それに伴って大気浄化の実証研究も活発化することも考えられる。 コストの問題を解決して、早期実用化が図られるよう期待する。	道路沿道のフェンスとして高活性炭素繊維を利用する場合、窒素酸化物は高活性炭素繊維に捕捉されて硝酸として固定され、再生可能であります。当システムは現在、各地で施工及び検討がされており、実用化が図られるよう研究を推進してまいります。

	平成 20 年度新規課題名 (研究期間)	主な意見	保健環境研究所における対応
環境関係	循環資源有効利用技術の開発及びリサイクル資源の環境安全性に関する研究 ー 焼却灰からの塩素除去技術に関する研究 ー (H20-21)	<p>焼却残渣の再利用促進は重要である。          焼却灰からの脱塩除去を低コストで行うことができれば、環境保全のための意義は大きい。          脱塩後の水処理コスト及び脱塩レベルを明確にし、トータルコストの評価も含めての検討が重要である。</p>	<p>焼却灰から塩分除去に関するメカニズムについては、詳しく検討を行っていきます。          脱塩後の水処理コストを含めたトータルコストを抑えるため、コンポスト使用量の低減化を図ります。          除去された塩類の処理・処分に関しては、極めて重要な課題ですので、このことについても検討していきたいと考えております。</p>

別表2 平成18年度終了研究課題に対する委員会の意見(抜粋)とその対応

	平成18年度終了課題名 (研究期間)	主な意見	保健環境研究所における対応
保健関係	ウイルス性食中毒検査法の開発 (H17-18)	公定法よりも高感度なノロウイルスの検査を見いだし、既に行政検査に使用していることは高く評価できる。 本成果を食品からの検出方法の確立へと発展させていきたい。	今後とも、最新の情報を収集するとともに、食中毒の原因食品と疑われるものからの検出についても継続して検討していきたいと考えております。
	ダイオキシン類のヒト健康影響に関する調査研究 - 油症患者ダイオキシン類追跡調査を中心として - (H16-18)	油症患者認定の基礎資料として、既に活用されており、学会での発表も活発に行われている。 ダイオキシン類による健康被害について、世界的にも役立てていただきたい。	今後とも継続して研究成果の取りまとめ及び発信に努めます。
環境関係	ダイオキシン類データベースの構築と解析及び簡易分析法開発への応用 (H15-18)	安価な研究コストで、将来につながる大きな成果(データベース構築)を得ている。 データベース化という地味な課題ではあるが、今後のダイオキシン対策に役立つものと思われる。	データベースについては、今後もデータの集積を進め汚染解析及び行政施策に貢献できるシステムを維持することを考えております。 今後、実用的な方法を確立するため実証試験を含めた種々の検討を継続することを考えております。
	北部九州における黄砂の影響に関する研究 - 春季における高SPM現象との関連について - (H15-18)	大気汚染物質の長距離移流の解析は重要である。経時的観察が重要と思われる。 発生源対策を含め、わが国、特に福岡県にとって積極的に続けるべき課題と考える。	平成18～19年において、オキシダント高濃度と黄砂が同時に観測されることがたびたびあり、これらは大気汚染物質の長距離移送という観点で捉えていかなければならないと考えております。 黄砂問題は重要であることから、今後とも継続して調査研究を続けていきます。

	平成 18 年度終了課題名 (研究期間)	主な意見	保健環境研究所における対応
環 境	有明海に対する陸域からの汚濁物質解析とその挙動に関する研究 (H16-18)	有明海の再生は、諫早湾干拓等の問題もあり、汚染物質の解析が急がれるところである。次に研究の機会があった際は、課題を共有する有明海沿岸地域との連携を図って共同研究に取り組んでいただきたい。	有明海沿岸地域で連携を図って共同研究に取り組むことについて、今後可能なことから対応していきたいと考えております。
関 係	廃棄物処分場の管理手法に関する研究 (H16-18)	廃棄物処分場の安全管理に関する新しい手法の確立は、有意義である。実態調査のほか、改善対策を行った処分場への応用性及び効果等も明確にしていきたい。	ご助言いただきました点につきましては、今後の研究に反映させていただきます。これまでと同様に行政との連携を保ち、最終処分場の環境汚染防止に努めたいと考えております。